第１回池田市まち・ひと・しごと創生に関する懇談会　議事要旨

日　時：令和元年１０月７日（月）１５：００～１７：００
場　所：池田市役所　３階　議会会議室

出席者：門屋氏（ソフトバンク株式会社）、白井氏（特定非営利活動法人トイボックス）、玉手氏（いけだサンシー株式会社）、殿垣氏（株式会社池田泉州銀行）、中田氏（池田商工会議所）、中村氏（大阪大学共創機構）、春山氏（一般社団法人伏尾台コミュニティ）、松原氏（株式会社ジュピターテレコム）、元平氏（池田市副市長）、田渕氏（池田市教育委員会教育長）
事務局：（池田市）総合政策部長衛門、総合政策部次長兼政策企画課長斎藤、政策企画課主幹野勢、政策企画課主任主事川本
（有限責任監査法人トーマツ）後藤氏、玉井氏

議　事
（１）開会

（２）第１期池田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の振り返り結果に関する意見交換
〇事務局から第１期池田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の振り返り結果の概要について説明を行い、主に次のような意見が述べられた。
・評価しづらい指標が多く、設定された KPI では施策の進捗評価が難しい部分がある。
・出生率に関しては、池田市だけの課題でなく、日本全国にとっても深刻な問題であり、他団体から若年層に移住してもらうだけでは問題を解決できないため、根本的な改善策を講じる必要がある。
・地域として子育て支援に対しても様々な取組を試みているが、出生率は横ばいの傾向である。
・伏尾台は坂が多いまちであるため、移動手段の確保が最重要である。昨年に実証実験として住民の送迎サービスを実施したが、料金設定が原因で利用者数が少なかったため、今年は一部の住民を対象に 11、12 月から 4～5 ヶ月間、無料での運営を実験予定である。また、伏尾台コミュニティは、小学校の跡地を、地域の交流の場として活用し、11 月からオープンする予定で、地域の創生を進めているところ。
・昨年度の事業により、大阪大学は池田市に関わる様々な方々の触媒になれたが、根本的な課題を解決するには至らない部分があった。一部の構想が具体化し、一定の成果につながっているが、それは池田市の人のよさが要因として大きいと考える。ただ、池田市の人のよさなどは定量的に把握できるものではなく、KPI としての設定は難しいものである。
・大阪大学としては人づくりに貢献したいと考えており、池田市とコラボレーションできるこ

とを更に深堀したい。

・まちの回遊性を高めるために、様々なイベントに取り組んでいる。回遊ルートの構築を考えているが、成果に繋がっていないところもある。

・税金を使わずに、事業所で解決すべきことは事業所で行うべきである。

・創業支援に関して、配慮はしているが、地域の活性化に繋がるのかが懸念されているため、KPI と理念を結びつけるよう工夫すべきである。

・トイボックスは学校と連携し、小学校の跡地を活用して不登校の子どもたちを指導、対応している。これは他の地域ではないことのため、これを目当てに見学、転居された方も多く、人口流入に貢献している。

・ばらまきで人々の欲望を追う形ではなく、本当に必要とされている居場所を作ることで、人々がやってくる。

・こうした懇談会にも女性の出席者を増やすことが重要であり、特に若い女性の意見を反映させるべきである。

・自治体間で人の取り合いが始まっている。ただ、大きな予算を投入しなければ優秀な人材を一気に引き寄せるのは難しい。

・多様な価値観を持ち、居場所がない方に居場所を提供していくべきである。新しい時代の価値観を沿った政策を立てるのが望ましい。

・各自治体がまちづくりに力を入れている。まち・ひと・しごと創生総合戦略は全方位的なものにならざるを得ない部分もあると思うが、市の特色や、注力する政策を打ち出すという観点を持つことも必要。

・設定している指標の達成状況について周辺自治体と比較することで、池田市の立ち位置の見え方が異なってくるので、例えば、北摂エリアの自治体と比較することも一案である。

・モデルとなるまちを設定し、そのまちの成功事例を参考とすることで、成功事例に近づくための課題等が見えてくる。

・池田市では小中一貫教育による学校教育の縦のつながりと、地域の方に学校教育に携わってもらう横の連携を図っている。地域の方が日常的に学校教育に携われるようにしていくことが重要である。英語の教育、ICT の環境整備など特色ある取り組みをしているが、さらなる充実を図っていきたい。

・池田市の教育が市の特色の一つとなり、社会から注目を集めることにより、まちの活性化に繋げていきたい。今後は各地域や団体と連携を深めていく。

・現在の社会情勢や全国的な状況を踏まえると、人口を維持することも立派なことである。人が定住し、生活するためには働く場所の確保が重要であり、雇用に関する支援が必要となるため、創業支援以外の面でも「つくる」に力を入れるべきである。

・若年層を今後どのように増やすのかを考えることが重要である。

（３）池田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの改訂案及び第２期池田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本的方向（案）に関する意見交換

〇事務局から池田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの改訂案及び第２期池田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本的方向（案）について説明を行い、主に次のような意見が述べられた。

・池田市の良いところが伝わっていないので、池田市の良いところを上手く伝えるようなプロモーションをすべきである。

・少子高齢化の波が止まらないので、AI やロボットなどは人との関わりの中でどのように活用していくのかを考えることは避けては通れない課題である。

・スマートシティは地域の人々と一緒に作らないとできない。

・金銭面を含め、若年層は未来に対して様々な不安を抱えている。例えば、ライフプランに関する授業などを小学生が受けることができるような取り組みを行い、池田市の独自性を構築してもいいかもしれない。

・池田泉州銀行では創業支援だけでなく、人材紹介事業にも取り組んでいて、事業者をサポートしているので、協力できることは今後も協力していきたい。

・人を呼び込むには受け入れ先が必要である。職住近接が重要なため、創業支援を含めた雇用支援に力を入れるべきである。従業者は消費者でもあるため、まちの商業にも貢献できる。

・観光地ではないが、お出かけスポットとしてポテンシャルがある。また、夜も楽しめる場所を作ることも考えられる。

・小規模な店舗が多いため、資金を要する宣伝を行うことは難しいが、税金を投入することも難しい。各店舗が利益と創意工夫により、顧客を呼び込む必要がある。

・国のビジョンを紐解くかたちではなく、池田市はこうであるべきというビジョンを考えると良いのではないか。

・文教都市など、何かに特化した政策があれば、そこからイノベーティブな展開ができるかもしれない。

・大都市のベットタウンという立地のプロモーションの難しさを感じている。何をプロモーションすべきというと、日本初めての公設民営というイノベーティブな形で開設しているスマイルファクトリーのような、他のどこにもない部分を打ち出していくべきである。

・教育で子どもたちが元気になったところで、出口がないと、定着にはつながらない。出口となる雇用の場を作る必要がある。

・エリート教育ではなく、農福連携のように、デコボコのある様々な子どもが活躍できる場を作る必要がある。

・伏尾台をスマートシティにしたいと考えており、夏に行った実験で実現できることが分かった。お金があれば、誰でも住めるスマートシティを構築できる。池田市のブランドとして、一気にプロモーションもできる。

・課題に対する取組がまちの特色になりうると考えている。教育においても、安心安全は課題の一つであり、防災などに対する展開を教育の柱の一つとして位置づける必要があると感じており、これが今後の特色の一つになるかもしれない。
・もう一つの課題として、外国人の在留者数の増加への対応が挙げられる。学校教育におけるインクルーシブや多様性への取組も池田市の特色づくりに繋がる可能性がある。
・プロモーションは来年度に向けて改善していきたい。
・池田市ではスーパーシティ構想を進めたい。
・人材不足が課題となっているため、職員一人ひとりの質を上げていきたい。
・雇用を生むことについて、誘致等について一度見直す必要がある。
・池田市のビジョンを示し、特色のある取組をしていきたい。

（４）その他
・本日の懇談会の意見を参考に、第２期池田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案を作成する。
・第２回池田市まち・ひと・しごと創生に関する懇談会の開催は、１１月中を予定。

（５）閉会